

前年度の成果と課題	教育目標	人間尊重の精神を培うことを基盤として、確かな学力の育成とともに、学ぶことの良さを知り、みんなで生活を創造するやさしさとたくましさを持った、心身ともに健全な子どもを育てる。	総合評価
○「主体的な学びを育む授業展開」についての研修を重ね、国語科において自分の意見をもち、共有することを大切にしながら授業づくりに生かすことができた。主体性をもって学習に取り組む児童を目標として取組を継続していく必要がある。 ○学力向上を図るために学年で計画を作成し、1年間を通して指導を継続することができたが、知識を活用する力や表現する力については課題が見られた。 ○校務分掌を中堅教員が中心に担い、ミドルリーダーの育成を進めた。教職員が多く入れ替わり、改めてより一層の指導的役割が求められる。 ○学校運営協議会、学校だより、授業参観などで情報発信や交流をおこなった。	運営方針	落ち着いた環境の中で豊かな学びができ、地域との連携を進め、保護者や地域に信頼される学校を目指す。	B
本年度の重点目標	(1)	落ち着いた環境の中で「生きる力」を育成することを基盤にした学習活動を展開する。	
	(2)	各教育活動を「子どもの側」からの見直しを通し、すべての子どもが主体的に活動できる場や機会の設定の工夫を行い、存在感や充実感をもって学習・生活できるようにする。	
	(3)	一人一人の児童理解をすすめ、豊かに学ぶ児童の育成に努めるとともに、家庭や地域社会との連携のあり方にも工夫改善を加える。	
	(4)	教職員の創意や良さを生かしながら、校内の各種運営組織の活性化を図るとともに、研究・研修に取り組み。	
	(5)	オープンスクールや学校新聞の発行によって地域・保護者への情報発信につとめ、外部評価も充実させ、学校改善に努める。	

評価の観点	評価	成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善案等	学校関係者評価
教育目標 経営方針	① 学習指導要領や「学校教育の指導方針」等を踏まえた教育目標や経営方針を設定している。	A	「香芝市学校教育基本方針」をもとに、学校目標、目指す学校の姿を設定し、教育課程やグラウンドデザインに示している。	Bの判断基準を教えてほしい。課題を明確にして、足りないところを補完していけるように、グラウンドデザイン等に示している重点目標の取組を進めてほしい。 近年、全国的に児童の体力低下や経験の偏りが見られると聞かされていたが、児童の体力向上に向けて、外遊びや体育科の授業の充実を図ってほしい。
	② 目指す学校像・児童像・教師像を具体的に示している。	A	「真美ヶ丘東小学校が目指す学校の姿」として、グラウンドデザインの中に示している。	
	③ 学校の特色や前年度の課題を踏まえた重点目標を設定している。	B	前年度の総括会議、学校評価、学力テストの分析、日々の授業観察などから出てきた課題を共有しているが、具体的な姿を踏まえた重点目標には至っていない。	
	④ 学校運営や教育活動を構造化・体系化してグラウンドデザイン等に示している。	A	「学校目標」「具体目標」「子ども・教師・地域・学校」の具体像を知・体・感を構造化してグラウンドデザインに示している。	
	⑤ 経営方針や重点目標等を教職員が共有している。	A	年度初めの職員会議や各部会等で経営方針や重点目標を共有したことにより、指導の方向性が統一され、学年間で話し合いながら教育学習を進めることができた。また、教務より具体的な取組についての提案もおこなった。	
	⑥ 重点目標等を学校だよりやホームページ等で児童生徒保護者・地域住民等に発信している。	B	学校だより配布とHPに加え、地域での掲示や、学校運営協議会会員への配布をおこなった。また、校内の掲示や学年だより等でも取組の周知をおこなった。	
重点目標	① 落ち着いた環境の中で「生きる力」を育成することを基盤にした学習活動を展開する。	A	「寄るをもつこと」をテーマにペア、グループ学習など対話を多く取り入れた。また、秩序ある学習環境の構築を目指すと同時に、なかま大切に、共に学び合う集団作りをすすめてきた。	本校の重点目標については、職員会議等の全体的な場や各学年部会で確認することができている。各学年が進めた取組の報告を受け、来年度は「相手意識」「対話」に焦点をあて、主体的な学びの促進、自分の考えの発信に取り組んでいく。また、若手教員が増えてくる中、これらの目標の着実な履行を目指す上でベテラン教員やミドルリーダーが今後一層、指導的役割を担いながら、学年会や各部会を行わなければならないと考える。
	② 各教育活動を「子どもの側」からの見直しを通し、すべての子どもが主体的に活動できる場や機会の設定の工夫を行い、存在感や充実感をもって学習・生活できるようにする。	A	研究主題の追求を中心として、各学年で工夫を凝らした取組を進めることができた。児童の主体性を引き出す授業づくりを進めたことで、自分の意見をもち、発表することができ児童が増えている。	
	③ 一人一人の児童理解をすすめ、豊かに学ぶ児童の育成に努めるとともに、家庭や地域社会との連携のあり方にも工夫改善を加える。	B	日々の児童観察に加えて、いいネットワーといういじめのアンケートを活用しながら、過程や地域と連携して、早期の問題解決や児童理解を進めることができた。児童間の関係づくりや気持ちを表出することにはまだ課題が見られる。	
組織運営 校務分掌	① 学校運営が円滑におこなわれるような校務分掌、学校組織になっている。	B	今年度は、図書館教育を編成しなおしたことで、業務の負担軽減を図り、一定の効果は得られた。しかし、校務分掌の改善の余地は残っている。	それぞれの先生方の得意や持ち味を生かしながら、子どもたちの学びが充実するようにしてほしい。
	② 終礼、学年会議、分掌会議等を定期的に行き、組織的な運営を進めている。	A	職員会議の次の日の終礼を廃止したり、提案を事前に確認してもらうなど、職員の時間的な負担軽減をおこなった。タレット端末を用いた終礼や会議が定着したことで、負担軽減につながっている。	
教育課程	① 学校や地域の実態及び児童の特性を踏まえて、各教科などの指導計画を作成し、取り組んでいる。	A	図工や食育など教科に関する計画を1枚の用紙にまとめたものを活用することができた。各学年の取組や行事を学期ごとに振り返り、よりよいものになるよう計画を立てておこなった。	図工や食育など教科に関する様々な計画を立てることで、確実に教育課程を進めることができた。毎学期に振り返り、計画を更新していくことで、より具体的な計画になり、担任の負担軽減と持続可能な指導につながると思う。来年度は、モラル教育の計画策定と人権教育に関する計画の見直し、授業時間の平準化をはかっていたい。
	② 授業時数の点検を定期的に行い、適切な授業時数になるように努めている。	B	各学年で時間割の工夫や行事の精選をしたり、教務主任が定期的授業時数を集計したりして、授業時間は確保しているが、学級間の違いが少し見られた。	
学習指導	① 学習指導要領に基づき、教育目標等を踏まえた各教科等の年間指導計画や評価基準を作成し、活用している。	A	各教科の年間指導計画を作成して、学年間で相談しながら進めている。教科に関する食育等の計画もまとめて確認できる用紙を作成し、活用している。	多様な指導が必要になっている中、日本語指導の必要な児童に対して、先生方が丁寧に対応してくれている。すでに習得している母語を使用することも大切だが、日本語で教えることも大切になっているという研修を受けたことでも、指導の工夫を続けてほしい。また、様々な取組を通じて、子どもたちが学ぶことが楽しいと思えるような授業を作っていた。
	② 児童が自らの考えをもち、共有することができる授業づくりに取り組んでいる。	A	研究主題の追求を材料を中心として、各学年で工夫を凝らした取組を進めることができた。来年度は理科の学習で対話力を高めたい。	
	③ 各教科の指導内容について基礎・基本を明確にし、児童が「分かる」授業を行っている。	B	県の学力テストの結果や日々の授業での見とせりから、各学年の課題についてまとめている。引き続き、漢字の書き取りや体験的に学ぶ内容には課題が見られる。	
	④ 学力向上を目指して、各学年で計画を作成し、取組を進めている。	A	校務分掌の担当と教務が相談し、学力向上に関する取組を各学年で話し合い、計画を立て、学期ごとに振り返りをおこなった。年間を通して、体系的な取組を進めることができた。	
学習意欲	① 児童の学習の実態を分析し、全教職員で課題を明確にしている。	A	全国学力・学習状況調査や県学力テストの結果や課題を、職員全体で共有し、改善を進めている。指導力向上研修会に参加し、内容を共有した。	個々の教員が有する授業のアイデア、とりわけベテラン教員の持つ実践やICTを活用した実践、研究会等で得た内容を共有していく仕組みを強化し、すべての教員が授業の幅を広げること、児童の興味・関心を高めたい。特に、これまでの研究をもとに、自分の考えをもって、相手意識をもち対話的に自分の考えを発信できる児童の育成をさらに進めている。
	② 学習意欲向上や児童の主体的な学びを促すために、教科等において具体的な取組を行っている。	A	研究主題の追求を中心に、各学年で児童の主体的な学びを促す授業をおこなうことができた。自主学習や自由進度学習などの学びも取り入れることができた。	
	③ 家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組を行っている。	B	家庭での学習習慣を構築するために、基礎基本を中心とした課題を計画的に準備したり、自主学習を進めたりした。	
生徒指導	① 児童の実態について共通理解し、教職員が連携して、組織的・継続的に指導する体制を整えている。	A	定期的、または状況に応じて臨時的に児童の実態を共通理解する場を設け、事象に対しては担任だけではなく、管理職や生徒指導主任も含めて組織的に取り組むことができた。	トラブルやいじめ対応など、児童の実態を共通理解し迅速に対応することができた。来年度は、すべての教員が児童を育てるということを大切に、指導の一体化をさらに進めていきたい。また、不登校児童や配慮の必要な児童、悩みをもたれている保護者の方などに、必要に応じて関係機関やスクールカウンセラーとの連携を図り、よりよい支援の在り方を考えることをさらに進めていく。
	② 児童や保護者の悩みを教職員やスクールカウンセラーに相談できるなど、教育相談体制を整えている。	A	教育相談部を組織の中に位置づけ、コーディネーター、担任、養護教諭と連携した。また、スクールカウンセラーによるカウンセリングをすすめて、多数の相談が寄せられた。	
	③ 生徒指導に関わって、家庭や地域、関係機関等との連携・協力体制ができていく。	A	トラブルやいじめ対応など、担任または担当と保護者との連携・連絡を密にし、迅速に組織的に対応することができたが、さらなる連携強化が必要である。	
規範意識	① ろうか右側歩行に対する指導・取組を行っている。	B	目標を定めて2年目となったが、まだ課題が見られる。個々や学級でおこなっている指導を、組織的に意識的に進めていく必要がある。	子どもの実態は様々である中で、職員全体が同じ意識をもって指導に当たることが重要であると考え、来年度は組織的な指導をさらに進めていきたい。引き続き、いじめの早期発見に努め、全教職員で共有し、迅速に組織的に対応をおこなっていく。
	② いじめに関して実態を把握するとともに、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。	A	いじめアンケートを実施するとともに、分析結果を全教職員で共有し、対応方法を考え、組織的に迅速に対応することができた。	
道徳	① 道徳教育の全体計画や別案を作成し、計画的に指導を行っている。	A	道徳の全体計画、指導計画を人権教育との連携も含めて見直し計画をもとに各学年・計画的・組織的に進めることができた。	年間指導計画を改善したことで、人権教育との連携もより一層、図れるようになった。しかし、道徳の授業時間の確保や、多面的、多角的な考え方ができるような授業づくりについて、より一層の研修が必要である。
	② 児童が多面的・多角的に深く考え、自己を見つめ、生き方についての考えを深める道徳の授業づくりに取り組んでいる。	B	各学年で話し合いながら進めているが、具体的な授業の進め方や多面的、多角的な視点をもたせることには改善の余地がある。	

評価はA・B・C・Dの4段階

教育活動	評価の観点	評価	成果と課題(評価の分析)	次年度への課題と改善案等	学校関係者評価
特別活動	① 特別活動の全体計画及び各活動・学校行事の計画を作成し、活用している。	B	年間計画を作成し、着し進めやすい学校生活を目指し各学年の状況に合わせて取り組んでいるが、まだ系統的な指導には至っていない。 昨年度の研修をもとに、各学級で取組を進めた。来年度は、より具体的な年間指導計画の作成と学級会のさらなる促進を促し、1年生から6年生まで系統的に話し合い活動に取り組めるようにしていきたい。		児童が楽しんで学校行事に参加できるように、内容の充実や主体的に意見を出し合い、話し合っていく活動を進めてほしい。
	② 学級生活の充実・向上や生活上の諸問題の解決に向けて、話し合い活動に取り組んでいる。	B			
人権教育	① 児童や地域の実態を踏まえ、「人権教育推進プラン」に基づいて人権教育推進計画を作成し、重点教材を中心に指導している。	B	各学年の実態から重点課題を決め、一人一人を大切に取る取組を進めている。今年度は夏休みに教材や教材の見直しをおこなった。 本校の人権教育推進計画に基づいて各学年で人権に関わる授業をおこなった。保護者向けの教育講演会ではモラル教育についてお話を聞かせていただいた。	各学年の計画を見直すことができ、より実態に即した計画を立てて、進めることができたが、重点目標や教材内容などをさらに見直す必要がある。11月におこなった人権の授業参観・教育講演会では、各学年で保護者とともにそれぞれの人権テーマに基づいて話し合うことができた。	人権教育について授業参観・懇談会、また保護者向けの教育講演会を実施することで保護者への啓発ができた。一人一人を大切に取る取組がさらに充実するようにしてほしい。
	② すべての児童が、違いを認め合い、互いを尊重し合う人間関係を築くための取組を行っている。	A			
特別支援教育	① 保護者の願いを大切にしながら、児童一人一人に合わせた指導計画を作成し、指導している。	A	個別の指導計画、さまざまなノートを作成し、個に応じた支援・教育と、交流計画など「障がい」(児)「理解」の二面から推進している。 特別支援学級に在籍する児童や、在籍しないが支援が必要な児童に対して、共通理解する機会をもった。今年度も様々な教員が関わる中で、さらなる共通理解の必要性を感じた。支援体制・指導内容が児童の発達や保護者の願いに沿ったものになっているかを定期的に点検し、あすなろ教室とも連携を図りながら、教育課程や支援の仕方に引き続き反映させていく。	特別支援学級に在籍する児童や、在籍しないが支援が必要な児童に対して、共通理解する機会をもった。今年度も様々な教員が関わる中で、さらなる共通理解の必要性を感じた。支援体制・指導内容が児童の発達や保護者の願いに沿ったものになっているかを定期的に点検し、あすなろ教室とも連携を図りながら、教育課程や支援の仕方に引き続き反映させていく。	一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実はとても大切であり、授業参観を通じて、適切に実施していただいていると感じた。引き続き、教職員の研修を重ね、児童に応じた教育や支援をおこなってほしい。
	② 教職員が正しく理解して、特別支援教育を進められるように研修をおこなったり、体制を作ったりしている。	A			
キャリア教育	① キャリア教育の全体計画を作成している。	B	実態に合わせて、キャリア教育を計画し、指導を進めた。キャリアパスポートの取組も実施したが、学校全体を見通したものに改善していく必要がある。 各学年の実態に合わせて、体験的な活動や仕事に関する学習を計画的に行なった。	キャリア教育の全体計画に基づき、各学年で指導を行っているが、学校全体を見通した系統的な計画に改善していく必要がある。より児童の実態に合わせた計画立案をし、キャリア教育の取組と関係づけながら実践をしていく必要がある。	将来に対する夢や希望が持てるような指導を計画的に行ってほしい。体験的な活動が各学年に応じて設定されており、キャリア教育に良い影響があると考えられる。
	② 夢や目標をもつなど、児童のキャリア発達につながる体験的な活動やゲストティーチャーによる講話などを計画し、実施している。	B			
健康安全	① 学校保健・安全計画を作成している。	A	前年度の総括をもとに計画を立て、4月に職員共通理解を図った。 6年生において薬物乱用教室や喫煙の防止に関する指導をおこなった。また、各学年に合わせて学級での性教育等の指導を計画的に行なった。 学級での指導以外にも、身体測定時間を利用して、養護教諭が系統的に、学年に応じた内容を指導した。 毎学期に災害の種類に分けて、マニュアルを基にした避難訓練を実施した。今年度は日時非公同のより実践的な訓練をおこなった。また、土曜参観に合わせて児童引き渡し訓練もおこなった。 たてわり掃除で異学年での清掃活動を取り入れた。キッズポーターの活動(児童のボランティア活動)として、今年度は回数を増やして、運動場の美化作業を実施した。	生徒指導主任・養護教諭・保健主事を中心に、教職員全体で共通理解をばりながら、引き続き、健康安全教育に取り組んでいきたい。外部人材も積極的に活用しながら、日々変化する社会状況に合わせた具体的な取組を進める必要がある。今年度は、大規模地震に対応するための児童引き渡し訓練を実施し、対応方法を検討することができた。また、ごころの掃除の向上を図るために統一した指導ができるようにしていく。	起こることがあるかもしれないと考えて、その対処の方法を研修で身に付けてほしい。職員の不審者対応訓練が実施されることにより、学校全体の訓練も充実することであると思う。 災害がいつ起こるかわからない。非常に子ども達が適切に行動できるように引き続き訓練をしてほしい。また、周りに先生がいないときどのように行動すればいいのかも指導してほしい。防災バッグなどを点検する取組がほしい。また、清掃活動にボランティアで参加して児童の姿を広げてほしい。
	② 薬物乱用や喫煙の防止、性教育等に関する指導を行っている。	B			
	③ 健康相談、保健指導を適切に行っている。	A			
	④ 避難訓練や交通安全教室、生活安全教室等の取組を計画・実施している。	A			
	⑤ 校舎、校庭等の環境美化や清掃活動を入れている。	B			
食育	① 児童の食生活の実態を踏まえた食育推進のための計画を作成し、具体的な取組を行っている。	A	食に関する指導の年間計画をもとに、各教科や給食指導、特別活動と連携して取組を進めた。 「元気もりもりカード」や、給食だより、給食試食会、動画などを通じて、児童・保護者への食への関心を高める。給食中は栄養教諭の巡回指導により、食への関心を高めることができた。	「元気もりもりカード」等を活用し、自分の食生活などを振り返る機会をもたせることができ、さらに児童の実態把握にも役立つ。また、栄養教諭の給食時間の巡回指導や、指示、食に関する授業、動画視聴などを通じて、児童の食への関心を高めることができたので、継続して取組を続けていく。	食への関心は子どもにとって大切なことなので、様々な食に関する取組を通して関心を高めたい。引き続き、元気な笑顔で育ってほしい。
	② 児童・保護者の食に関する意識を高める取組を行っている。	A			
読書活動	① 全校一斉の読書活動や読み聞かせ、図書館だよりなど、読書活動を推進する取組を行っている。	A	全校一斉の読書活動では、落ち着いて読書活動に取り組んでいた。図書館委員、図書館ボランティアの読み聞かせや図書館だより、家読だよりなどで積極的に推進した。 各教科での調べ学習等、時間を振り割って効果よく図書室を活用できた。また、高学年の読書活動のために朝の時間を確保することもできた。	図書館委員や図書館ボランティアの方の様々な活動により児童の読書意欲の向上につながっている。今年度は読書内容の充実を図った。来年度は、さらなる質の充実を図り、高学年を中心に、さらに図書室使用の頻度を高めていきたい。また、新聞も配置され、読む児童も年々増え、児童の興味関心に役立っている。	ゆずりはコミュニティの中で読書活動の推進が中心の話題になるなど、保護者・地域と一体となった活動としてますます発展することを願っている。図書館ボランティアの募集に地域も協力していく。
	② 学校図書館が読書活動や教科指導等に有効に活用されている。	A			
体力向上	① 児童の体力の実態を分析し、全教職員で課題を明確にし、年間指導計画を作成している。	A	体力テストの結果や体育の時間の児童の様子から、課題を見出し、職員間で共通理解を図ることができた。 児童の実態や本校の実情を考慮した上で指導計画を作成し、計画に沿って取り組んだ。みんなが楽しめるような授業作りをおこなうためには、さらなる研修が必要である。 かけっこや縄跳びに全校で取り組む期間を設けたり、その成果を表彰する場を設定したりすることができた。体力向上を担当する校務分掌を作り、より具体的な取組につながりつつあったが、さらなる取組の充実が必要である。	体力テストの結果や日常の体育の授業をもとに児童の課題を把握している。全体的に運動が苦手な児童が多く、全国平均と比べても低い項目が多い。課題解決に向けての学校全体の取組には改善の余地があり、学校全体で共通理解をもって、授業づくりや体力向上についての取組を進めていきたい。来年度は体力向上を担当する校務分掌を作り、より具体的な取組の取組を見直しをおこなう。	今の子どもは自由に遊ぶ時間がない。昔はもっと自由に遊んでいたと思う。体を動かすことが好きな児童が多いと思うので、子どもたちが自由に遊ぶように、遊ぶ環境づくりを進めてほしい。
	② 年間指導計画に基づき、みんなが楽しめる体育の授業を計画的に行っている。	B			
	③ 体育的行事や休み時間など、体育科の授業以外で、課題解決に向けた具体的な取組を計画して取り組んでいる。	B			
地域連携	① 地域住民や保護者と連携・協働して、課題解決に向けて取り組んでいる。	A	A	学校だよりを通じて学校の取組や児童の様子を、幅広く発信した。また、掲示板やホームページも活用し、一般地域住民の方々の目にも触れるように今後も進め、本校の課題改善に向けて取組を進めていきたい。	保護者の方も含めて、あいさつをする習慣を身につけてほしい。学校とともに家庭でも頑張ってもらいたい。
危機管理	① 公文書や個人情報の管理や保護を適切に行っている。	A	個人情報の管理・徹底を図り、管理職が点検・確認を行っている。各種鍵の保管と金庫の管理について徹底することができた。 緊急時の対応についてマニュアルに沿って避難訓練を行った。昨年度に引き続き、児童や教職員に知らせないより実践的な訓練をおこなうことができた。 職員研修において、生活管理表の共通理解を図るとともに、緊急時の指図体制や対応について具体的な事例をもとに訓練を行った。	あらゆる危機を想定し、危機管理マニュアルの周知と改善を今後も継続していく。児童の避難訓練や職員の研修についても、より具体的な状況設定のもとに行うことで、実用性を高めていきたい。昨年度に引き続き、児童や教職員に知らせないより実践的な訓練をおこなうことができた。また、危機管理意識の向上に努めることができた。	アレルギー対応の児童が一定数あり、家庭と連携をとりながら適切に対応していただいている。また、職員の不審者対応訓練や避難訓練などは、消防・警察の協力を得て実施してもらいたい。
	② 危機管理マニュアルを作成し、共通理解している。	B			
	③ 食物アレルギー等を有する児童生徒に対して、指導体制や緊急対応の体制を整えている。	A			
学校評価	① 学校評価委員会等を設置し開催している。	A	12月末に各分掌の主任、教務、教頭、校長が集まり、学校評価委員会を開催した。主任の立場から建設的な意見が多く提案された。 各校務分掌において、目標や計画を提案する際に、評価項目も検討するように実施した。そのことで、目標と評価項目を連携して考えることができた。 外部・内部・児童それぞれの評価項目を連動させてアンケートをおこなひ、比較しながら実態把握、課題発見することができた。また、総括において、各分掌で振り返ることができた。 学校運営協議会の中で評価結果を考察していただき、次年度の改善へとつなげている。 校務分掌の主任を交えて結果を考察し、総括会議において、学校評価を生かした次年度に向けた提案をおこなわれた。 学校運営協議会の中で周知を図るとともに、学校HPにアップしている。	各校務分掌の主任が集まり、学校評価委員会を開催した。主任の立場から結果を分析し、建設的な多様な意見が出てきたことで、それぞれの分掌で次年度に向けた活発な話し合いになり、総括会議にもつながった。また、今年度は目標や計画を立てる時に、評価項目についても話し合うことができたことで、目標と評価を連携させて考えることができた。児童、教職員、保護者に加え、学校運営協議会の方々による授業参観や学校行事への参加をすすめて、より幅広い外部評価を行った。また、今年度より保護者の全家庭をアンケート対象とし、より幅広い意見を集約することができた。さらに、アンケート形式による評価だけでなく、意見交換をおこなう場を設け、様々な角度からの感想や意見を取り入れようとした。	児童、教職員、保護者、地域の評価をもとに学校改善に取り組んでほしい。すべての項目がA,B,C,Dが、C,Dがついていると改善も伝えずに思う。C,Dがつくような項目はないというとなので、組織的に取り組むことができているのだと思う。先生方は資料を作ったり、指導をしたり、色々なことをしたりしていただいているので、評価は高くいいのではないかとと思う。
	② 本年度の重点目標等の達成に向けた具体的な目標や取組を評価項目として設定している。	A			
	③ 児童生徒や保護者等を対象としたアンケート(授業評価を含む)を自己評価に適切に活用している。	A			
	④ 保護者を含めた学校関係者評価委員会を設置し開催して、学校関係者評価を実施している。	B			
	⑤ 学校評価を基に、学校改善が進んでいる。	B			
	⑥ 保護者や地域住民等に自己評価や学校関係者評価の結果を公表している。	A			
研修・研究	① 学校や学級の課題を明確にし、研究主題を追求している。	A	研究主題「主体性を育む授業展開を目指して～自らの考えをも、共有する学習を通して～」として、研究を進めた。研修やMYタイムを通して、研究の方向性を共有し、学校全体で取り組むことができた。 すべての学年で、教科と人権教育の研究授業や実践報告を実施した。また、自主的に授業を見学する機会も設けた。夏休みの研修では、各学年で単元計画を話し合うことができた。 研究主題につながる国語の研修や、MYタイム(日々の実践の報告)を実施した。次年度はさらなる研修の充実を図りたい。	「主体性を育む授業展開を目指して」をテーマに6年間研究を進め、児童が主体的に学ぶ姿を目指して、授業づくりを工夫した。今年度は「自らの考えをも、共有すること」に重点を置き、理科の学習を通して、根拠のある考えをもつことに主体的に取り組む、児童の主体性を育む授業づくりの心がけられた。奈良県小学校理科学習の会会長として、公開授業をおこなひ、県内の理科を研究されている先生方と理科の授業づくりについて話し合うことができた。来年度はこれまでの研究の成果を生かして、自分の考えを発信していくことに重点を置い取り組んでいきたい。	研究テーマを理科に焦点化することでより具体的な研究・研修ができたのではないかと。また、公開授業に向けて1年間取り組んだことは、子どもが学力向上のみならず、先生方の資質能力の向上を図る一助になっていることだと思う。今後もさらなる向上を目指して、励んでほしい。
	② 全ての学年で授業研究を計画・実施し、情報共有を適宜おこない、授業改善に全校体制で取り組んでいる。	A			
	③ 今日の教育課題や学校の課題に即した研修を計画・実施している。	B			

※評価はA・B・C・Dの4段階